認定NPO法人

CWS JAPAN

2022年度 年次報告書

たった一人のためにでも、世界をつなげたい。
CWS JAPAN
Church World Service

守れる命を守るために

2022

ANNUAL REPORT

【2022年7月1日～2023年6月30日】

ごあいさつ GREETINGS

2022年もさまざまなご支援者およびパートナーの皆さまの協働に感謝いたします。世界的に影響を及ぼしたパンデミックに加え、増え続ける災害・紛争に対し、CWS Japanとして支援事業が例年以上に増えた年でした。同時に、増え続ける人道ニーズに対応するために新規の雇用や給与体系、タスク管理などを含めた組織体制の強化を行ってまいりました。今後ともニーズに応じた迅速な活動を通し、課題の本質に迫るインパクトを創出できるよう、一同鋭意努力してまいります。

気候変動の影響もあり、われわれの身の周りで災害が年々増えています。英語ではHazard（大雨・台風・地震などの自然現象）とDisaster（人間の生活に影響を与える「災害」）を使いわけますが、自然と共存する術を身に着け、災害リスクを減らせるかどうかはわれわれの意識や行動にかかっています。災害リスク削減に発災前から取り組み、必要な措置を講じることで災害が多発する現代社会において人間の尊厳を守る社会づくりを目指します。また、人と人がつながることで、災害に負けない、より安全・安心で強い社会をつくることができると考えています。

最後に、2023年4月21日付でCWS Japanは認定NPOの資格を取得いたしました。今まで以上に社会的責任が増すと同時に、災害時に取り残される方がいない社会の実現に向け、より一層努力してまいりたいと思います。守れる命を守るために。今後も、皆さまのご支援・ご参加を心よりお待ち申し上げております。

事務局長　小美野 剛

CWS JAPANの活動に参加してみませんか？ JOIN US

お金の寄付

寄付金お支払い方法は以下の通り

■銀行振込
銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：神田支店（331）
口座種類・口座番号：普通　0333754
口座名義：特定非営利活動法人CWS Japan
カナ：トクヒ）シーダブリユエスジヤパン

■ゆうちょ銀行振込
郵便振替口座名：特定非営利活動法人 CWSJapan
（トクヒ）シーダブリュエス　ジヤパン）
口座記号番号：00160-7-486854
※通信欄にemailもお持ちでしたらご記入ください。
※銀行からの振込のとき：
店名：〇一九（ゼロイチキュウ）
店番：019
当座預金　0486854

■クレジットカード振込
右記のQRコードから
必要な情報をご入力下さい。

モノの寄付

おうちにあるモノで募金ができるようになりました。ご自宅に眠っているブランド品や貴金属などを寄付金に変えて支援することができます。

詳しくはこちらのQRコードをご覧ください。

ボランティア/インターンシップ

学生インターン、社会人プロボノ、ボランティアなどで活動することについて興味がある方は、お気軽に事務局までお問い合わせください。

事務局連絡先
TEL　03-6457-6840
E-mail　public@cwsjapan.jp

皆さまからいただいたご寄付は主に活動地における事業費として有効に活用し、ご寄付額の最大10%をCWS Japanの管理運営費などに使わせていただきます。お気持ちにあった形でご協力いただけましたら幸いです。CWS Japanへのご寄付は、寄付金控除の対象となります。

災害時に誰一人取り残されることがない社会へ

CWS JAPANとは
ABOUT US

米国に本部を置くChurch World Service（CWS）の歴史は、敗戦直後の日本へ贈られたララ物資の配給活動から始まりました。2011年には、東日本大震災に対する緊急支援を行うためにCWS Japanとして立ち上がりました。

わたしたちの目標
OUR GOAL

地域の人々が自ら持つ社会資源を育み、外部の知見や資源を効果的に使うことで、災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現を目指します。そして、宗教、人種、国籍などにかかわらず、全ての人の人権が尊重され、平和で安全に暮らすことができるアジア太平洋地域と、国際社会の実現を目指します。

目指す社会を実現するための3つのアプローチ
OUR APPROACHES

1.地域の力を引き出す

地域の人々が災害に強い社会を自ら構築するため、平時から地域の力を引き出すサポートに取り組みます。

2.学びの共有・発信

学んだ教訓を地域と共有し、国内外へ発信することで、持続的で災害にレジリエント（強靭）な社会の構築に貢献します。

3.パートナーシップの構築

ビジョンに共感しあえる多様なアクターと連携することで、社会課題解決に向けたシナジーを生み出します。

活動の3つの軸
OUR SIGNATURE ACTIVITIES

緊急・人道支援

いち早く、そして持続可能な復興を実現すべく活動しています。

コレクティブ・インパクト

多様なアクターとの連携を通して社会にインパクトを生み出していきます。

災害時に
誰一人取り残されること
がない社会へ

防災力向上・コミュニティ開発支援

地域の視点を大事にし、共助の輪を育みながら地域の災害対応能力を向上させることに貢献します。

CWS Japanはひとつの団体では成しえない社会的インパクトの創出のために、関係するセクターや業界におけるネットワーキングを重視しています。

actalliance JAPAN FORUM　ADRRN　JCC-DRR 防災・減災 日本CSOネットワーク　JQAN　JAPAN PLATFORM

緊急・人道支援

1. アフガニスタンの深刻化する人道危機に対応

アフガニスタン・バーミヤン県における国内避難民および帰還民を含む気候変動の影響を受ける人々に対する食料安全保障の改善およびレジリエンス向上のための緊急支援(フェーズ2)

©CWSA

事業概要 バーミヤン県は国内最貧地域の一つであり、地形的特徴から、冬の気候は厳しく、洪水や干ばつなどの災害を誘発する地域でもあります。脆弱性の高い層を対象に、現金給付と災害の影響を受ける世帯に対する防災支援を行っています。緊急の人道ニーズへの対応と並行し、中長期の災害リスク軽減共同計画を策定し、その計画に基づいて災害リスク軽減活動を行うことで、地域の防災力を向上することを目指しています。

成果
- 国内避難民や帰還民などの最も脆弱な450世帯を対象に、食料を得るための現金を配布

ただ現金を配布するだけでなく、災害リスク軽減活動に従事する裨益者への対価として、現金を受け取ることができる支援の方法（キャッシュフォーワーク）も同時に採用しています。防災の視点を入れるなど、中長期スパンのアプローチも踏まえた本支援が差し迫った食料不安のリスクを軽減する一助になることを目指しています。（担当S.N）

2. アフガニスタン東部地震の被災者の住宅再建を支援

アフガニスタン・パクティカ県の地震の影響を受けたGiyan地区における災害リスク軽減のための安全な仮設住宅支援

事業概要 2022年6月に発生したアフガニスタン東部地震の被災者が、安全に暮らすことができる耐震住宅の再建を支援しています。

成果
- 被災した50世帯(約350名)が耐震住宅を再建
- 被災地の人々と現地で活動する支援関係者あわせて1,500名に対して耐震住宅の設計技術を含めた防災研修を実施し、能力強化に貢献

現地のニーズとして挙がっていた、余震や厳しい冬の到来などのリスクにも耐えうる住宅を再建できました。この住宅設計・建設の知識と経験が地域に根付いていくことを期待しています。（担当G.I）

© CWSA

3. パキスタンの洪水被災者の食料アクセス改善と農業復興支援

シンド州Mirpurkhas地区の洪水被災者に対する食料や緊急生活必需品入手のためのキャッシュ配布支援事業および洪水被害を受けた小規模農家に対する生活再建支援事業に対する生活再建支援事業

事業概要 2022年6月以降のモンスーンの影響により、パキスタン全土で多くの人々が、降雨や洪水、地滑りなど壊滅的な被害を受けました。洪水被害が甚大なシンド州Mirpurkhas地区の被災者に、食料やニーズの高い医薬品、シェルターなどの生活必需品を入手するための現金配布を行いました。農業復興支援についても順調に活動が終了しており、想定した成果が上がっていることが期待できます。

©CWSA

成果
- 被害を受けた小規模農家に対して、農業復興のための現金や農具などを 525世帯に配布
- 優先して現金を配布した、災害時における社会的脆弱性が高い世帯（障がいのある家族のいる世帯や母子家庭など）のうち、70%以上で食事の内容（質や量）が改善
- 裨益者の95%が食料だけでなく生活全般にわたる心身の健康状態が改善

対象地域それぞれの事業の進め方や、地域ならではのリスクに違いがあるという学びを活かしていきたいと考えています。パキスタンの洪水被災者が、現金配布支援により食料や緊急必需品を入手することで、より早く復興することを願っています。（担当S.R）

4. 日本における潜在的災害弱者である外国人を支援

公的支援にアクセスしにくい難民・移民のための伴走支援事業

事業概要 「平時の社会的弱者は潜在的災害弱者でもある」という仮説のもと、対象地域で公的支援にアクセスしにくい難民・移民に生活支援と見守りを行うことで、平時から外国人脆弱層や同国人コミュニティと信頼関係を構築することを目指しています。
また、自助力向上と有事への備えを見据え、当事者が生活圏内で助けを求めることができる地域の社会資源（団体・個人・施設など）とのつながりの構築をサポートしていきます。

成果
- 新宿区で外国人相談会や外国人当事者主体のワールドバザールを開催し、約40名の在日外国人に対して、食品・日用品などの生活物資の配布、生活相談、各種同行支援を実施

外国人相談者には在留資格がない仮放免者が多く、就労できず行政サービスも受けられないことから生活支援が必要なことがわかりました。これらの相談者には長期間にわたりさまざまな伴走支援（医療費・住宅家賃補助・各種同行支援）を団体自己資金を投じて継続的に行っています。皆さまのご協力とご理解をよろしくお願いいたします。（担当Y.M）

©CWS

5. ミャンマーでの支援

2021年2月に発生した政変以降、ミャンマーの人道状況は悪化しています。ミャンマー国内では、いまだ武力衝突が止まず、避難生活を送る人々や、政情不安によって、さらに困難な状況に陥ってしまった子ども、女性、高齢者、障がい者が多くいることに憂慮しています。

防災力向上・コミュニティ開発支援

6.アフガニスタンの人々が自ら災害リスクを特定し、減災する能力を高める

アフガニスタン防災力向上に向けた人材育成および政策環境整備事業

© CWSA

事業概要

2016年から2018年に第1フェーズとしてナンガルハール県とラングマン県にて取り組んだ、洪水・地滑りをはじめとする災害に対するコミュニティ防災力向上の活動成果から、次の段階へとつなげるため、2021年より第2フェーズとして下記の事業を継続しています。

- 防災インフラ整備計画・設計の技術移転および設置工事
- 防災ボランティアの増産およびリモートセンシングや衛星画像による地形判読などの新たな技術移転
- 高度防災人材育成への支援

成果

- 新型コロナウィルス感染症（COVID-19）や同国の政変の影響を受け、3カ月遅れで開始後、計画通りナンガルハール県において110mの防護壁と10基の砂防ダム工事を2023年3月に完了
- 日本からのオンライン形式で技術研修を3回実施
- カブール大学環境学部内に防災専門コースを設立するためのカリキュラム開発にも協力

アフガニスタンの人々は自然災害やCOVID-19、政変などに翻弄され、厳しい社会・生活状況の中で暮らしています。しかし、人々の学習意欲は非常に高く、高度な技術を着々と身につけている姿を見て頼もしく感じます。（担当Y.M）

7. 出会い・助け合いを目指した居場所づくり

難民・移民・市民が出会い・つながるコミュニティ・カフェ事業

事業概要

多文化共生地域である東京都新宿区において、市民・難民・移民・支援者が出会い、つながる場づくりを通して、地域内関係者間で潜在的要支援者を特定します。地域コミュニティがセーフティーネットとなり、相互に見守ることによって、有事に取り残される人々がいないレジリエント（強靭）な多文化共生型の地域コミュニティづくりを目指しています。

成果

- 地域のあらゆる人々が交流・相談できる居場所として月2回、第1・第3水曜日に日本福音ルーテル東京教会のスペースを借り、「コミュニティ・カフェ@大久保」を運営
- ミニコンサート、料理教室などのイベントも開催し、カフェの認知度向上と、地域内の人々の接点作りを実施
- 外国人向けの日本語学習支援や、生活相談の窓口も開設
- 上記の活動によって、複数回カフェに通う外国人が増加

地域の方々との連携や顔の見える関係づくりはまだまだ始まったばかりです。どんな方でも自分らしくいられるような居場所づくりを目指して、今後もいろんな仕掛けづくりに挑戦したいと思います。プロボノやボランティアに興味がある方がいれば是非ご連絡ください！（担当S.N）

©CWS

コレクティブ・インパクト

8. 未解決の防災課題をコミュニティとともに解決する

Community Led Innovation Partnership (CLIP)プログラム

事業概要

CLIPは、防災・減災に関わるコミュニティ発の新しい取り組み（イノベーション）を支援するプログラムで、英国政府の資金支援を受けて2020年に立ち上がりました。フィリピン、インドネシア、グアテマラ、コンゴ民主共和国の4カ国から、約50ものコミュニティが「自分のことは自分で解決する」という考え方でプロジェクトを実行中です。

成果

「当事者の主体性と創造性を最大限尊重する」ことがCLIPの一番の特長です。災害が起こったとき、人道支援はとても大切な役割を果たしますが、一方で、コミュニティの人たちの声は忘れ去られがちです。CLIPでは、人道支援に関わる関係者がこうした問題と向き合い、災害リスクに晒されているコミュニティの人々が自ら問題を定義し、解決策を提案し、実行するというプロセスを大切にしています。

CLIPは2025年の春まで続きます。アジアの災害対応NGOを支援する国際プロジェクトであるATIH（ADRRN Tokyo Innovation Hub）の運営団体であるCWS Japanでも、日本国内での災害支援のかたちをコミュニティから変えられるよう、日々の活動で貢献していきたいと思います。（担当I.U）

©CLIP

2022年度に完了した事業

9.アフガニスタンの防災力の向上を目指して

アフガニスタン・バーミヤン県における国内避難民および帰還民を含む気候変動の影響を受ける人々に対する食料安全保障の改善およびレジリエンス向上のための緊急支援(フェーズ1)

©CWSA

事業概要

バーミヤン県において、脆弱な世帯の緊急ニーズおよび気候変動に伴う中長期的なニーズに対応するため、下記を実施しました。

- 緊急現金配布(930世帯)
- 災害リスク軽減活動に関連するキャッシュフォーワーク(144世帯)
- 農法研修(900世帯)

結果、国内避難民および帰還民を含む気候変動の影響を受ける人々の食糧安全保障を改善し、12村にて度重なる災害に対するコミュニティのレジリエンス(防災力)が向上しました。

10. 2021年台風「ライ」の被災者に支援を届ける

フィリピン・南レイテ州における住居、精神保健・心理社会的支援、水衛生、防災支援

©CDP

事業概要

2021年12月に発生した台風の被害が最も大きかった地域の一つであるフィリピン中部地域南レイテ州の被災者に、喫緊の課題であった住宅、心理社会的サポート、安全な水へのアクセスを提供しました。また地域主体となって支援を届けられるよう後押しし、将来の災害に備えて地域の対応能力向上を目指した支援を行いました。

©CWSA

11. アフガニスタンの食料安全保障を改善

アフガニスタン・ナンガルハール県の対象地区における栄養価の高い食品へのアクセス向上による食料安全保障の改善のためのキャッシュ支援

事業概要

ナンガルハール県の3地区内604世帯に対し、主に食料品入手のための現金配布を3カ月間実施し、裨益者の食料へのアクセスの向上と地域コミュニティの経済的脆弱性へ対応しました。その結果、対象地域の食料安全保障の改善に寄与しました。

12. 緊急人道支援の中長期的なインパクトを調査

インドネシア・東ヌサトゥンガラ州におけるサイクロン・セロージャ被災者世帯に対するコミュニティ防災力向上緊急支援へのインパクト調査

©CWS

事業概要

2021年に発生したサイクロン「セロージャ」で被災したインドネシア東部の東ヌサトゥンガラ州Malaka県の被災世帯に対し、緊急物資の配布と汚染した井戸の修復によって衛生的な環境の確保と安全な水の供給を実施しました。また被災コミュニティ内で災害リスクへの理解を促進し、将来発生しうる災害に対し、同じような被災を回避できるようワークショップを実施しました。本活動では、防災活動における効果の持続性の評価と課題の抽出を行いました。

©CWS

13. 乾燥地帯のコミュニティにおける干ばつへの対応能力強化

パキスタン・シンド州干ばつ等対応防災力向上

事業概要

計24村において、貴重な水源となる井戸を掘削し、その維持管理を担う防災委員会を立ち上げました。また水資源を有効活用するための貯水タンクの設置や、干ばつに強い農法や家庭菜園に関する研修なども実施しました。さらにこうした取り組みをモデルケースとして、シンド農業大学や現地の担当行政機関に広く伝え、技術的研修も実施しました。

14. 度重なる災害に対して強靭なコミュニティをつくる

ベトナム・チエムホア県災害レジリエンス向上事業

©CWS

事業概要

洪水・土砂災害被害が多発するトゥエンクアン省チエムホア県において、地方政府のリスクアセスメント並びにコミュニティの自主防災計画策定支援の能力強化を通じて地域の包括的な災害対応能力を向上させることを目的として下記を実施しました。

- ハザードマップ作成を通じた災害リスクアセスメントの技術移転
- コミュニティの気象観測並びに防災マップの作成を通じた災害リスクの把握
- 護岸工の設置による災害リスク削減
- 政府関係者へのコミュニティの自主防災計画策定支援方法の技術支援

その他の活動

2022年7月27日に寄付者の皆さまを対象に「アフガニスタン緊急人道支援活動報告会」をオンライン開催いたしました。同支援は2022年1月から4月の間で実施され、脆弱な世帯の命をつなぐことができました。当日の報告会ではアフガニスタン現地とつなぎ、現地パートナーと現地の裨益者の生の声をお届けしました。

処遇改善・働き方改革への取り組み

CWS Japanは地域の人々が自ら持つ社会資源を育み、外部の知見や資源を効果的に使うことで、災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現を目指し、さまざまな事業展開を、セクターを超えた協働のもと実施しています。そのビジョンに向けた組織づくりを目指し、2023年は職員の抜本的な処遇改善を行いました。

CWS Japanでは、関わっていただくすべてがかけがえのない価値を持った"人財"であり、限られた人生のうち大きな時間を投じる仕事に対して、相応のサポートや評価がされるべきだと考えています。価値追求型の非営利組織の運営を持続するためには、高い付加価値のある解決策を常に模索し、必要なリソースをそこにつなげるスキルが必要で、それらを実現するプロフェッショナルを求めています。そのため、2022年から段階を経て、2023年にかけて給与体系の改善を行いました。また、コロナ禍で求められた柔軟な働き方を実現すべく、リモートワークの導入やデジタル化を推進してまいりました。給与水準に関しては、一般労働市場においても遜色のない、競争力の高い水準を目指しました。また、役職ごとに求められるスキルやパフォーマンスを明確化し、職員それぞれのキャリアプランを立てやすくするとともに、人事考課は経営陣の最優先事項として位置づけています。

一人ひとりの専門性や力を社会課題の解決に活かし、今後もより一層高い付加価値をもたらしてまいりたいと考えています。皆さまのご理解を賜れますと幸いです。

CWS Japan事務局長
小美野　剛

インターン生の声・活躍

館農知里さん

「学生ならではの視点」を活かしつつ、SNS定期更新、若者向けイベント企画や広報物作成など幅広い業務に携わらせていただきました。インターン活動を通じてCWS Japanの活動や職員の方々に身近で触れるなかで、「地域の視点」や「当事者の視点」を尊重する支援の重要性を改めて感じるようになりました。一方的に物資やサービスを供給するのではなく、「地域とともに考え、協働する」という姿勢が、本来あるべき「包括的かつ持続可能な支援」に必要不可欠なものなのだと強く実感しました。今後はCWS Japanでの経験を活かしつつ、国際協力や人道支援に貢献できるグローバルな人材を目指していきたいと思っています。

楠真依さん

インターンを通して、さまざまな業務の機会をいただきました。イベントをゼロから企画するのは今回が初めてだったので、試行錯誤しながら進めるのは大変でした。企画の中身にこだわるだけでなく、まずより多くの方々に興味を持っていただけるような工夫も重要だと感じました。インターンを通して、目に見える形で成果が見えてくるため、一つ一つのプロジェクトに精力的に加わるモチベーションにつながりました。また、ともに活動しているインターンの仲間には自分にはない強みやスキルを持っているため、日々学ぶことが多く向上心を持ち続けることができました。

三国萌恵さん

10カ月ほど学生とのコネクションづくりを中心にインターンとして活動してきました。学生に主体的に多文化共生と向き合ってほしいという思いから、地域のなかで人々が交流・相談できる居場所づくりを目指すコミュニティ・カフェ@大久保の活動に参加する学生を集め、ともにカフェ運営やイベント企画を行いました。学生やイベント参加者が集まらないなどさまざまな課題に直面し、つながりをつくるには誰かが来るのをただ待つのではなく、自らアクションを起こす必要があると学びました。今後は、自身の周りの学生に声をかけるなど、身近なところから少しずつ輪を広げていきたいと考えています。

※事業(1)〜(14)は以下の団体の資金協力、または助成プログラムのもと実施しています。
(1),(2),(3),(9),(10),(11)：ジャパン・プラットフォーム（JPF）
(4)：赤い羽根ポスト・コロナ(新型感染症) 社会に向けた福祉活動応援キャンペーン 外国にルーツがある人々への支援
(6),(13),(14)：外務省（日本NGO連携無償資金協力）
(7)：ブリヂストンBSmile募金
(8)：The Humanitarian Innovation Fund（HIF）

たった一人のためにでも、世界をつなげたい。
CWS JAPAN
Church World Service

会計報告 FIANANCIAL REPORT

令和4年度 活動計算書（令和4年7月1日～令和5年6月30日）

（円）

科　目	金　額		
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
受取寄付金			
一般	28,470,153		
エキュメニカル防災・災害支援	32,799		
アフガニスタン支援	223,200		
パキスタン支援	7,901,400		
Technical Unit	4,861,800		
コミュニティカフェ運営	13,902	41,503,254	
受取助成金等			
受取民間助成金	130,933,291		
受取政府助成金	282,997,601	413,930,892	
その他収益			
受取利息	773		
雑収費	2,319,450	2,320,223	
経常収益合計			457,754,369
(2)経常費用			
事業費			
【人件費】			
給料手当	33,693,422		
通勤手当	635,780		
非居住者社保手当	374,400		
法廷福利費	4,942,470		
福利厚生費	144,269		
【人権費計】	39,790,341		
【その他費用】			
謝金	8,729,418		
現地事業実施経費	254,388,212		
会議費	72,163		
旅費交通費	9,190,246		
負担金	100,000		
通信運搬費	777,494		
広告宣伝費	282,764		
消耗品費	43,259		
支援物資費	43,259		
支援金	644,020		
事務用品費	194,643		
教育研修費	35,000		
印刷製本費	5,870		
支払地代家賃	1,256,050		
貸借料	73,500		
保険料	3,246		
海外旅行傷害保険料	64,129		
支払会費	252,618		
委託費	120,408,085		
支払手数料	816,798		
外部監査報酬	5,842,009		
租税公課	51,300		
支払助成金	273,600		
為替差損	1,757,265		
【その他費用計】	405,304,948		
事業費計		445,054,63	
管理費			
【人件費】			
給与手当	3,903,106		
通勤手当	105,840		
法廷福利費	150,377		
福利厚生費	78,875		
【人件費】	4,238,198		
【その他費用】			
会議費	88,461		
旅費交通費	1,212,621		
通信運搬費	423,384		
広告宣伝費	15,287		
事務用品費	346,035		
教育研修費	16,200		
印刷製本費	580		
支払地代家賃	106,010		
保険料	184,378		
支払会費	111,600		
委託費	1,306,636		
支払手数料	685,921		
外部監査報酬	715,000		
租税公課	4,300		
【その他費用計】	5,216,413		
管理費計		9,454,611	
経常費用計			454,509,243
当期計上増減額			3,245,126
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益合計			0
(2)経常外費用			
経常外費用合計			0
税引前当期正味財産増減額			3,245,126
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			3,245,126
前期繰越正味財産額			28,004,136
次期繰越正味財産額			31,249,262

令和4年度 貸借対照表（令和5年6月30日現在）

（円）

科　目	金　額		
資産の部			
流動資産			
普通預金	179,172,645		
未収金	7,831,873		
前払費用	403,845		
仮払金	187,136,245		
立替金	1,085,591		
流動資産合計		375,630,199	
固定資産			
敷金	256,365		
固定資産合計		256,365	
資産合計			375,886,564
負債の部			
流動負債			
未払金	35,522,503		
前受金	307,108,598		
預り金	2,006,201		
流動負債合計		344,637,302	
負債合計			344,637,302
正味財産の部			
正味財産		31,249,262	
正味財産合計			31,249,262
負債及び正味財産合計			375,886,564

特定非営利活動法人CWS Japan（所在地：東京都新宿区、事務局長：小美野剛）は、2023年4月21日付で所轄庁である東京都から承認を受け、特定非営利活動促進法（平成10年法律第7号）第45条第1項の規定により、**認定特定非営利活動法人**となりました。

法人名	特定非営利活動法人CWS Japan
設立	2011年3月
特定非営利活動法人格取得	2013年1月
理事	ショウ　ラジブ 小美野　剛 龍　信之助 田島　誠 小海　光 元川　士郎 小松田　貞利 リーバーグ キャサリン
職員	10名（インターン含まず） ※2023年6月末時点

【お問い合わせ先】

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館25号室
TEL　03-6457-6840
E-mail　public@cwsjapan.jp

公式SNSアカウント随時更新中です！

https://www.cwsjapan.org/

たった一人のためにでも、世界をつなげたい。
CWS JAPAN
Church World Service

FSC® 森林認証紙、ノンVOCインキ（石油系溶剤0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生するCO_2全てをカーボンオフセット（相殺）した「CO_2ゼロ印刷」で印刷しています。